

1. 拡散に支配された凝集 (DLA) とそれに関連した現象

東北大・通研 松下 貢, 早川美徳, 近藤 宏
名大・工 本田 勝也, 豊木 博泰
NEC・基礎研 大西 樽平

DLA (diffusion-limited aggregation) とその一般化, 及びそれによって説明可能な現象などについて, 我々の最近の研究成果を中心に概観した: (1) はじめに自然界に見られる DLA に関連したランダムパターン, (2) DLA とはモデルの構成と特徴, (3) DLA パターンのフラクタル次元に関する Honda-Toyoki-Matsushita 理論, (4) DLA 固有の stochasticity, (5) DLA の一般化とそのフラクタル次元, 誘電破壊現象への応用, (6) バックグラウンド格子異方性の DLA パターンへの影響, (7) 樹枝状結晶成長と DLA との関連, (8) 今後の課題。

なおこの話題に関する詳細は追って本誌に投稿予定。

2. 電気分解によるアグレゲート成長と樹枝状成長の遷移

東北大・通研 早川美徳, 沢田康次

電析物の形態が, 電解液の種類や濃度, 電解電圧等によって様々に変化することはよく知られている。いくつかの系では電析物の成長が拡散に支配された凝集 (DLA) によってよく記述できることが報告されているが, DLA 的な成長と, 異方性を持った樹枝状成長との関連については明らかでない。我々が実験を行なった亜鉛 (陽極) | ZnSO_4 水溶液 | 炭素 (陰極) 系のようにアニオンとカチオンが一種類ずつの系ではイオンの輸送が拡散方程式に従うため, 電析物の DLA 的な成長が予想される。ところが現実の系では DLA 的な成長は比較的低電解電圧の条件で見られるものの, 異方的な樹枝状成長も多く観察される。DLA のコンピュータシミュレーションにおいて, クラスター表面の成長確率のゆらぎを複数個のランダムウォークによる平均化操作によって弱めると, 格子の異方性の影響が重要になって樹枝状のパターンが現れることが示されている。実在の系においてもゆらぎと異方性の競合がアグレゲートの成長と樹枝